

(成果情報名) 曲がりが少なく早期収穫可能なアスパラガスの保温資材と利用法		
[要約] 早期収量が高い保温用資材はエアーキャップシートであり、曲がりが少なく品質が高い資材は低発泡ポリウレタンシートである。効果的な資材の利用法として、若茎の出芽揃いまではエアーキャップシートとビニールによる二重被覆で保温するが、出芽後は低発泡ポリウレタンシートを加えて三重被覆にする。		
(研究所名) 農業総合センター山間地帯特産指導所	成果 区分	技術参考

1. 背景・ねらい

県北地域で普及している主な作型は露地で、10アール当たり500kg前後と少ないうえ不安定で品質が良くない。安定した収量と品質を得るためには、露地から半促成作型への切り替えや、収穫開始時期が早く品質を高められる資材の選定と効果的な利用法の確立が必要である。そこで、半促成作型における、品質が良く早期収穫可能な保温用資材を選定し効果的な利用技術を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 3月の早期総収量は、エアーキャップ区が高い。特に、3月中旬の収量が高い。(図1)
- 2) 地温は、エアーキャップ区がビニール区より1℃前後高めに推移する(図2)。
- 3) A品率とL以上の割合は、低発泡ポリウレタンシート区で高く、若茎1本当たりの重量が重い。(表1)
また、収量に対する曲がりと穂の開きの割合は、低発泡ポリウレタンシート区がビニール区に比べて低い。(図3)
- 4) 保温資材は、保温開始から立茎前まで図4のように利用する(データ省略、図4)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 県下全域で適用できる。
- 2) マルチを被覆する前にたっぷりかん水する。
- 3) 地温を高めるためにトンネル内を透明ポリでマルチする。出芽が始まったらマルチを切り、出芽を促す。

4. 具体的データ

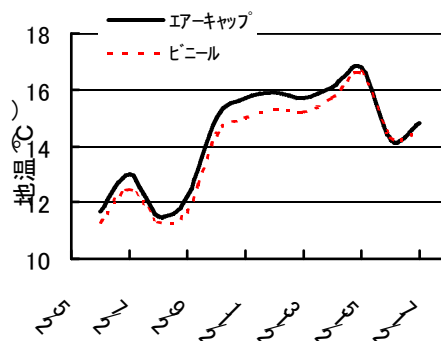
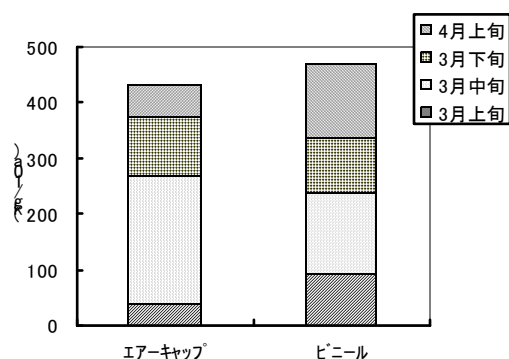


図1 資材の違いと旬別収量 (kg/a)

図2 資材別地温

品種：ハイトル 定植：平成13年4月 栽植密度：150×30cm
 保温開始：2月4日 ビニール0.075mm エアキャップは包装用資材
 基肥：N：14 P₂O₅：14 K₂O：14(kg/10a) 堆肥：4t
 収穫期間 エアキャップ区 3月3日～4月7日 ビニール区 3月2日～4月5日

(調査年：平成17年)

表1 資材と出芽揃から立茎まで収量、品質

資材 (kg/a)	収量 (kg/a)	A品率 (%)	1本重 (g)	階級別割合 (%)			
				2L	L	M	S
ポリエチレン	20	79	23.5	18	67	14	2
ビニール	23	51	17.0	4	64	23	9

階級 2L>37g 37g>L>15g 15g>M>10g 10g>S>7g
 品種：ハイトル 定植：平成13年4月 栽植密度：150×50cm
 基肥：N：8.4 P₂O₅：8.4 K₂O：8.4(kg/10a) 堆肥：4t
 資材：ポリエチレン(低発泡)、ビニール(0.075mm) 保温開始：2月12日
 (調査年：平成14, 15年)

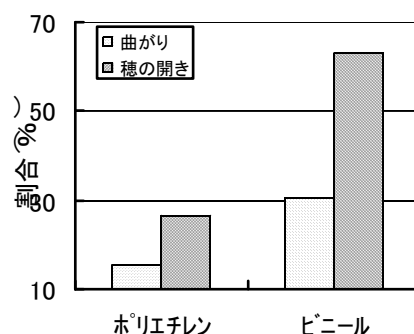


図3 資材の違いによる若茎の曲がりと穂の開き

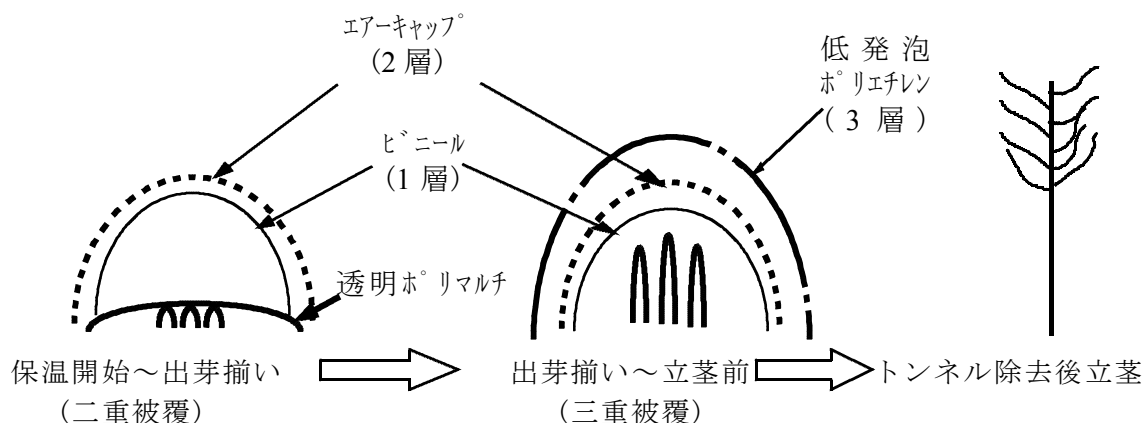


図4 資材の利用法

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

半促成と雨除け作型を組み合わせたアスパラガスの長期間良質・多収栽培技術の確立
 ・平成16～平成19年度・山間地帯特産指導所